

幸せな贈り物

故天安艦 46名の勇士

歴史に残る 貴重な死

大韓民国はあなたを永遠に忘れないでしょう 3月26日に起きた天安艦沈没事件で、全国民の胸の中に46名の勇士が刻まれたに違いありません。沈没事件以後、トンア大学医大キム・ドクギョ教授の「天安(チョンアン)艦失踪者の生還を祈る詩」はすべての国民の胸を泣かせました。

「772艦の水兵は帰還しなさい。772艦、出て来なさい。全国民が切なく待っている。漆黒の暗やみも、西海のどんな急流も、あなたたちの帰還を防げない。作戦地域に残っている772艦の水兵は直ちに帰還しなさい。772艦、出て来なさい。ガスタービン室ソ・スンウォン下士、答えなさい。ディーゼルエンジン室のチャン・ジンソン下士、答えなさい。あなたの任務すでに終了したので、夜が過ぎる前に帰還しなさい。772艦、出て来なさい。誘導操縦室アン・ギョンファン中佐、出てきなさい。保守工作室パク・ギョンス中佐、答えなさい。後舵室イ・ヨンサン兵長、答えなさい。荒れた水の流れをかきわけて、海上に浮上しなさい。全力をつくして、私たちのそばに戻りなさい。機関操縦室チャン・チョルフィ二等兵、答えなさい。兵士食堂イ・チャンギ上士、答えなさい。私たちが降りて行く。SSUチームが降りて行く時まで、持ちこたえて耐えなさい。772艦の水兵は答えなさい。名を呼ばれた水兵は、即時、返答することを望む。ナム・キフン少佐、シン・ソンジュン中佐、キム・ジョンホン中佐、パク・ポラム下士、イ・サンミン兵長、キム・ソンミョン上兵、カン・テミン一等兵、シム・ヨンビン下士、チョ・ジョンギョ下士、チョン・テジュン二等兵、パク・ジョンフン上兵、イム・ジェヨブ下士、チョ・ジフン一等兵、キム・ドンジン下士、チョン・ジョンユル中佐、キム・テソク中佐、チェ・ハンゴン少佐、パク・ソンギョク下士、ソ・テホ下士、パン・イルミン下士、パク・ソクウォン中佐、イ・サンミン兵長、チャ・キュンソク下士、チョン・ボムグ上兵、イ・サンジュン下士、カン・ヒョング兵長、イ・サンヒ兵長、イ・チェミ兵長、アン・ドンヨブ上兵、ナ・ヒョンミン一等兵、チョ・ジンヨン下士、ムン・ヨンウク下士、ソン・スミン下士、キム・ソンホ一等兵、ミン・ピョンギ中佐、カン・ジュン中佐、チェ・ジョンファン中佐、キム・ギョンス中佐、ムン・キュソク中佐、名を呼ばれた水兵は、直ちに帰還しなさい。前戦の哨戒は、戦友に任せて、ひたすら生きて帰還しなさい。これがあなたたちに大韓民国が与える最後の命令だ。大韓民国を守る神様よ、まだ作戦地域に残っている772艦の水兵を救ってください。四十六人の大韓の息子たちを、冷たい海底に孤独に置かずに、全国民が待つ暖かい家で生還させてください。かならずそのようにしてください。」



彼らはずいぶん私たちのそばで生き返ってくるのができなかったのですが、むしろ国民の胸の中に永遠に生きて歴史に記録される最も美しい名前になりました。46人の一人一人の死が大切なのは、国民と国の安全を彼らの全人生の中に入れてためです。もう一度、彼らの名前を呼んで、大韓民国国民として感謝の言葉を伝えたいです。

私たちにもその日は決まっています。地球上で死ぬことを避けられる人はだれもいないでしょう。ところで、死にもいろいろあります。46人の勇士のように貴重な死があるかと思えば、みじめな死もあります。

「神は死んだ」と主張した無神論哲学者の代表的な人物であるフリードリヒ・ニーチェ(1844-1900)、「神は死んだ...私は運命だ」という言葉を残したあと、46歳で精神分裂になって、10年間苦しみの中で過ごし、1900年8月25日の明るい真昼に「私に光をくれ...なぜ、こんなに暗いんだ!」と言って、大声で叫びながらみじめな死を迎えるようになりました。

ところで、聖書にはまた別の人の死の話があります。イエス様が人間のすべての問題を解決された聖書に約束されたキリスト(メシヤ)だという事実をユダヤ人の前に宣べ伝えたので、石で打たれ死んだステパノです。

「... 聖霊に満たされていたステパノは、天を見つめ、神の栄光と、神の右に立っておられるイエスとを見て、こう言った。『見なさい。天が開けて、人の子が神の右に立っておられるのが見えます。』人々は大声で叫びながら、耳をおおい、いっせいにステパノに殺到した。そして彼を町の外に追い出して、石で打ち殺した... こうして彼らがステパノに石を投げつけていると、ステパノは主を呼んで、こう言った。『主イエスよ。私の霊をお受けください。』そして、ひざまずいて、大声でこう叫んだ。『主よ。この罪を彼らに負わせないでください。』こう言って、眠りについた。」使徒の働き 7章

私たちがどんな死を迎えなければならないのでしょうか。

死の開始と永遠な安息 エデンの園で起きた人間の死の歴史、まず明らかに知っておかなければならない事実があります。本来の人間は神様のかたちとして創造されました。それで、神様と交わりができる唯一の存在であり、神様の中でだけ真の安息を味わうことができます。ところが、悪魔の誘惑に負けて罪を犯して、神様を離れるようになりました。その結果、神様のかたちが壊れて、その霊は死んだ状態になりました。その時から人間には、失敗と死、苦しみが休まなくやってくるようになりました。結局、この世で旅人の人生を生きて、故郷(天国または地獄)に行くようになります。神様は人間に神様のかたちを回復させるために、自ら神様のかたちを持ってこの世に来ら

れて、十字架の死と復活によって人間の敵であるサタン(悪魔)を打ち砕いて、人間が解決できない原罪の問題を解決してくださいました。その方がまさに神性と人性を持っておられるイエス・キリストです。すなわち、神様が人間となって来られたのです。イエス様は、苦しみの中にいる人々に向かってこのようにおっしゃいました。

「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。」(マタイの福音書 11:28)

聖書は人間に死んでも終わらない来世のさばきがあることを確かに語っています。「そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように」(ヘブル人への手紙 9:27)

どのように解決すれば良いのでしょうか。「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」(ヨハネの福音書 3:16)、「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです。」(ヨハネの福音書 5:24)

今、あなたの苦しみは何ですか。イエス様はあなたの苦しみをご存知で、それを解決することを願っておられます。今、祈りを通してイエス様を受け入れれば、死を越えて永遠な神様の子どもになって、新しい人生を始めることができます。すべての人生の問題、死ねば終わるのでなく、信じれば永遠に終わるようになります。

「イエスは言われた。『わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことはありません。このことを信じますか。』(ヨハネの福音書 11:25-26)

神様の子どもになる受け入れの祈り

愛の神様、私は罪人です。イエス様が十字架で死んで、復活されることによって、私のすべての問題を解決して下さったキリストであることを信じます。今、私の心の扉を開いて、イエス様を私の救い主として受け入れます。今、私の心の中に来て下さって、私の主人になって、私を導いてください。これから、神様の子どもになった祝福を味わいながら生きるようにさせてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

一度の人生 最高の計画

今日歩かなければ明日は走らなければなりません ロシアの作家であるドストエフスキーの言葉です。孫子の言葉に「先に戦場に行き、敵の襲撃を待つ軍隊は安らかだ。だが、のちほど戦場に到着して戦いに勝つ軍隊は大変だ」という言葉があります。先に起きて準備をする人は、余裕があります。ただ一度だけの人生なので、今日一日、最高の計画を持って最高の祝福を準備したら真の成功は準備する人を迎えるでしょう。

神様が最も希望されること 重職者は、まず、今、私が一生生きていく間に、暗やみの中で福音の光を放つ地教会をいくつたてるのかを決めて準備を始めなければなりません。

教会の中の働き人に力を与えて、新しい家族が答えを受けられるように手助けして、専門家とエリートが福音に根をおろして恵みを受けるように手助けすれば良いのです。

今、未信者の現場には福音が宣べ伝えられて、安らかに接することができる現場が全くありません。福音を現場で簡単に聞けるようにさせるのが地教会です。

新しい家族には、信仰生活がよくできるようにみことばを正しく聞いて、現場で力を得るように手助けするだけでもかまいません。そして、今、現場でさ迷っている既存信者に力が出るように手助けすることをすれば良いのです。

成功した人々、専門家は、教会にきて実際に信仰生活することが難しいのです。こういう人々に答えを与えれば、とても簡単に専門家の伝道現場が開くようになります。また、エリートは話せない霊的問題を持って、答えを探してさ迷っています。彼らに正確な答えを与えるのが地教会です。

それで、みなさんの地域を生かさなければなりません。今からみなさんが複雑にせず福音を味わいながら福音を伝えることだけずっと祈れば良いのです。みなさんの人生の中心が神様の祝福と通じるようにすれば良いのです。それが定刻祈りです。この時、神様がみなさんに不思議に事業にも力を与えてくださり、不思議に証拠もどんどん来るようになります。これを聖霊の満たしと言います。

アン・チャンホ先生は、警察署 100 個よりは教会一個がより良いと言いました。一人の泥棒が十人の警察を避けることはやさしくても、十人の警察が一人の泥棒を捕まえることは簡単ではありません。それで教会は、油を注がれたしもべを所々に立ててみことば運動を行って、福音の光を照らすのです。そうすれば、暗やみの勢力は消えるようになります。みなさんが昼も夜も地域の暗やみを倒す地教会を考えて祈ったら、みなさんは最高の人生で、最高の伝道者です。

神様の子どもたちの五つの確信

- 1 **救いの確信**：イエス・キリストを信じて受け入れた私は、神様の子どもになって救いを受けました(ローマ 8:15 ~ 16、Iヨハネ 5:10 ~ 13)
- 2 **祈り答への確信**：神様の子どもはイエス・キリストのお名前でも何でも求めることができ、神様はみこころ通りに必ず答えてくださいます(ヨハネ 15:7)
- 3 **導きの確信**：神様は聖霊で私の中におられ、私のすべての人生を治めながら導かれます(ヨハネ 14:26 ~ 27、箴言 3:5 ~ 6)
- 4 **赦しの確信**：私のすべての罪はイエス・キリストのあがないの血の力で解決され、神様はだれでも罪を悔い改めれば許して下さいます(Iヨハネ 1:9、ローマ 3:24)
- 5 **勝利の確信**：救われた私は、世の中に勝たれたイエス・キリストによって、どんな問題の中でも信仰で勝利することができます(ローマ 8:31 ~ 37、Iヨハネ 5:4)

神様の子どもたちの毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。

今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。

私の家庭と現場と行くところごとに、福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。

どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。

そして、私の生活を通して、イエス様がキリストであるということがあかしされ、私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。

今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

千回の悲しみ



イラスト_ユン・スルギ

4月を残忍な月だと言うのは、T.S.エリオットの詩「荒地」に出てくる句のためだ。

April is the cruelest month,

(4月は残酷な月だ)

breeding lilacs out of the dead land,

(死んだ土地からライラックを芽生えさせ)

mixing memory and desire

(記憶と欲望をないまぜにして)

stirring dull roots with spring rain.

(春の雨で鈍い根を刺激する)

西海で散った若者たちによって、大韓民国は深い悲しみの一週間を送った。十の指の中で、かんでも痛くない指がないのに、私たちが直面している国家的な現実と、世界史の位置から、若者を危険な死の谷間に置かなければならない場に私たちは立っている。

息子の死の前で、もがきながら、悔しく戻ってこない愛の告白に息詰まる母の涙は、何度も悲しみを勝ち抜いた目で、数えきれないほど体験した痛みを耐え抜いただろうが、今は感じられない息子の布団を敷く悲しみの涙だ。

しかし、母は目で泣いて、父は心の内で泣く。若い夢を祖国の今日と未来のために捧げなければならないという使命感に、悲しいの涙を流す母を回って背中を押しかけた父の苦しみは当然なことだと感じながらも、青い海に情熱を傾けたその息子を胸に刻まなければならない、仕方がない苦しみは百回の痛

みより千回の悲しみより大きい。

国のための必然的献身に、国民はともに哀悼して悲しみを慰める。

地球は血を望む。限りない戦争と自然災害が予告なしに迫ってきて、人々に悲しい涙を流すようにさせる。こういう問題の原因は、結局、人間にあるが、その原因を解決できる条件を持っている人は何人もいるのではなく、ただ1人だけだ。人として血を流すべきで、この世の影響に勝って死に勝てなければならぬ。キリストは、人間の救いの孤独な歩みを歩んで、神の国の御座を離れて地上に観光に来られたのではなく、すべての民の罪と悲しみを担いに来られたのだ。だれにでも子どもは尊いのに、そのような性格を持った人間を創造された神様は、ご自身の息子を、罪がある人間のために十字架で血を流して、みじめに死ぬようにこの世に送って、淡々とそれを眺めるしかなかったので、天安艦をながめる父の心情と同じだっただろう。

彼らの労苦で私たちは足をゆっくりのばして寝られ、休むことができた。またキリストの死を通して永遠の苦しみに勝つ救いの自由を得る。いのちの自由のために受けられた千回の悲しみに勝とうとしたら、4月は残忍な月だと歌う詩人の句が、残忍だが幸せな心を与える。

文_チョン・ヒョングク牧師(福音コラムニスト)